

**留学先国名** : イギリス

**留学先学校名** : エジンバラ大学

**留学期間** : 平成 27 年 9 月 7 日 ~ 平成 28 年 6 月 16 日

○学習面

1 学期目にリーマン・ショックを再考する授業や開発経済学、2 学期目に国際ビジネスやグローバル経済史を履修した。授業はすべてレクチャーとチュートリアルに分かれており、レクチャー 2 : チュートリアル 1 の比率で授業スケジュールが組まれていた。特にチュートリアルでは 50 分の間、10 人ほどの学生と 1 人のチューターとでレクチャーで学んだ内容をディスカッションするもので、最初はろくについていけなかった。だがリーディング課題とレクチャーの復習をしっかりとこなしただけで喰らいついた結果、自分なりに議論に貢献できるようになった。とりわけ日本人ならではの視点や知識を意識して活かした。基本的にどの授業でもエッセイが 2 本ずつ課され、そのために 1 つのエッセイで最大 20 ほどの参考資料（英語論文・文献）に触れたりもした。エジンバラでの 8 ヶ月間の学習を通じて、ネイティブ同士の議論にも臆さず参加する度量、大量の英語文献を読みこなす力やそれをエッセイにまとめ上げる力が身に付いた。

また中国語の授業を 1 年間履修し、会話能力が伸びた。エジンバラ大学の中国語は通常授業の倍以上のコマ数があり、毎日ネイティブの中国語に触れることができた。また 3 人の担当教授のうちの 1 人が、積極的に生徒同士のインターアクション（特定のフレーズを使った会話、交互での文章朗読）をさせてくれたため、実践的な会話力が鍛えられた。来年 2 月から 1 年間の台湾留学を予定している自分にとって、中国語の会話力の向上はイギリスでの思わぬ収穫となった。

○生活・交友面

これまでの家族に引っ付いて行った海外滞在と違い、ひとりで行った今回の留学は自分にとって新鮮な経験となった。海外で初のひとり暮らしを苦労も多かったが、慣れれば気楽なもので、日本よりゆったりとした暮らしを楽しむことができた。

交友面では、ポーランド人とスペイン人の留学生と特に仲良くなり、それぞれの国の歴史や社会風習・情勢を話し合ったりした。ポーランドでは月収が 16 万円あれば裕福な暮らしができるという話には驚いたし、日本の大学にはチュートリアルがないと言うと 2 人とも驚いていた。またキプロス人のフラットメイトから、キプロスの東半分が 40 年前からトルコに不法占領されたままという事実を初めて知らされることもあった。全体を通じてヨーロッパ人は敬虔なキリスト教信者が多く、ベジタリアンも一定割合いた。ヨーロッパ人は良く言えば融通が効き、悪く言えばとても雑な一面がある。「お客様は神様」などという文化はなく、向こうのその時の態度で受けれるサービスの質が変わる。だがこのことにはプラスの側面もある。たとえば電車の乗り換えを間違えてしまった時、それを知った車掌の女性がチケットの情報をペンで書き換えてくれ、無償でもとの駅まで戻してくれたことがある。日本ではありえないことだ。良くも悪くもヨーロッパは日本ほど丁寧じゃないし、

日本ほどキッチリもしていない。最初は戸惑ったが、慣れればその人間臭いヨーロッパの文化がとても好きになった。文化の違いを肌で感じられた1年だった。

課外活動ではコーラスグループに入った。多国籍なメンバーと共に声を合わせて練習し、時に結婚式で歌を披露するなど、とても楽しい思い出になった。海外のサークル活動は多くても週2回の活動頻度で、課外活動に対する日本とのスタンスの違いを感じた。

#### ○反省面

ここまで今回の交換留学の良かった面をあげてきたが、もっとやれたと思う面も多々ある。まず、もっと勉強できたということ。取る授業にもよるが、実はエジンバラ大学の授業はそれほど課題の量が多くなく、手を抜けばそこまでプレッシャーのない学生生活が送れる。内容が難しい授業でも、成績に関わってくるものだけに注力すればけっこう良い成績を取れてしまったりもする。それで構わないという人はいいかもしれないが、こんなに勉強できる機会もそうそうないので、有効活用してほしい。

また第一セメスターはあまり外に出てイベントに参加したり、新しい人と出会ったりをしなかった。留学に行くまでに人間関係に疲れ、しばらく一人でゆっくりしたかったからだ。そこに関して後悔はないが、周りの友達を見て「こんなことをしていいのか」と不安になることはあった。「なぜエジンバラに留学するのか」という軸がしっかりしていなかったのも心残りだ。そして、それでもなんとか留学前にひねり出した目標も達成できなかった。だから、これから交換留学に臨む後輩で、もし私のように留学の軸が定まっていない人がいるのであれば、この体験を反面教師にしてほしい。8ヶ月という期間は短い。「なぜこの国、この大学に留学するのか」という理由を明確にし、スタートから積極的に外部の機会に参加し、勉学にも励み、留学の価値を最大化してほしい。もちろん、私のように最初は一人の時間を取ってもいい。だがあまり長い間その状態に安住しない方がいい。せっかく留学に来たのだから、外に出よう。色々な機会に顔を出し、自分に合う場所を見つけよう。ちょうど大学に入学したころのように。

総じて、今回の交換留学はとても良い経験になったし、行ってよかったと心から思う。これから飛び立つ後輩も楽しんでくれることを切に願う。